

米欧回覧

第20号
編集・発行
米欧回覧の会
事務局

平成のサムライ 寺島実郎氏の講演が大好評!

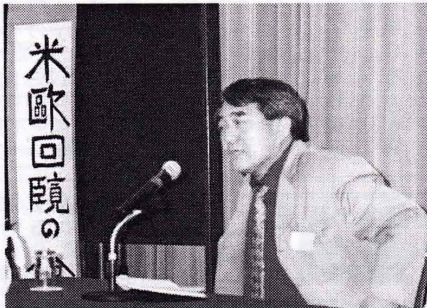
第18回
例会

第十八回例会は、七月二十九日(土)の午後二時から、日本プレスセンター十階ホールで、歴史部会の担当で行われた。夏休み中にもかかわらず、北は仙台から、南は鹿児島まで、総勢七十七名が参加した。

最初に泉三郎氏より会務報告を兼ねた挨拶があり、続いて各部会の担当幹事よりそれぞれの活動について報告があった。

二時半からは講演の部に入り、藤原宣夫氏による講師紹介のあと、寺島実郎氏による講演「一九〇〇年への旅」が七〇分にわたって行われた。(講演要旨四面)

百年の物差しで世界の中の日本を見据える内容で、われわれの会にまことにふさわしい力のこもった講演であり、参会者に深い感銘と多大な示唆を与え



米欧回覧の会

た。そのあとコーヒーブレイクにはいり、九つのテーブル毎にブンブン方式による議論があり質問が百出し、寺島氏は熱心にこれに答え、定刻を三〇分もオーバーする形で閉会となった。

総合司会は浅沼晴男氏、講演の司会進行は半沢健市氏が務め、進行もスムーズ、極めて熱気のもった充実した会となった。

なお、懇親会は隣接する富国生命ビル二十八階にある見晴らしのいい聘珍楼で行われ、二十五名が参加してワイングラ

ス片手に談笑の時を過ごした。会場については同ビルに事務所をもつ小山ヒロミさんの推薦によるもので美味珍品のルクセンブルグワインの差し入れもあり、小田八郎氏の司会で数々の多彩なショートスピーチもあつ



このため泉三郎代表、山田哲郎国際交流部会幹事、岩崎洋三映像部会幹事など会員一行十数名がベルリンに向けて八月二十七日出発します。二十八日のシンポジウム、レセプションに参加後、二十九日の午前中「プレゼンテーション&デイスカッション」を主催する予定です。

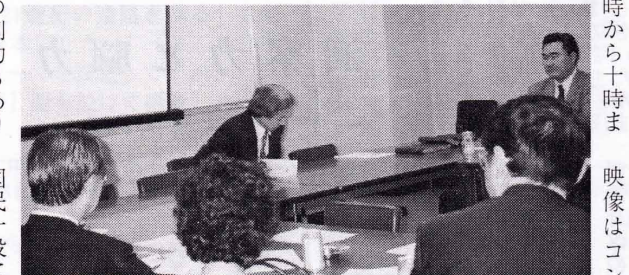
「ドイツにおける日本年」の目玉行事として、新装なった首都ベルリンで「日独交流史展」岩倉使節団が開催されます。会場はラートハウス(写真)。歴史を織り成してきた由緒ある建物です。展示会とシンポジウムで構成されるこの行事で当会は「映像のプレゼンテーション」を行います。

て、なごやかなうちに大いに懇親を深めた。会場は日比谷公園と皇居前広場を見下ろす絶好のロケイションにあり、西の窓からの風景は夕焼け空に高層ビルのシルエツトが浮かび上がることのほか美しかった。

羽田孜民主党幹事長も賞賛! 「岩倉使節の旅」スライド上映会

参議院議員会館で

八月三日午前九時から十時まで、参議院議員会館で「映像の会」が開催されました。この会は当会幹事の石川直義氏の肝いりによるもので、参議院議員の木俣佳丈氏が世話役となり羽田幹事長が民主党の議員に呼びかけて行われたものです。当日は国会会期中のこともあり参加者は秘書を含め二十人ばかりでしたが、是非にと自民党からも出席者があり小ぶりながら充実した会となりました。時間の制約もあり



映像はコンパクト版の第一巻「アメリカ編」だけが上映され、泉三郎氏がそれに補足説明をする形となりましたが、参加者の反応は頗る良好でした。岩倉使節団についてはこれまでも米国の大学での講演でとりあげるなど造詣の深い羽田幹事長から、「六百三十日の合宿旅行はムリでも、五時間の映像勉強会はぜひやりたい」、「次回は広報で呼びかけよう」、「これは映画にして広く国民一般にみせるべきだ」など頼もしい発言がありました。議員会館へ投げられたこの一石がこれからどう波紋を呼ぶか、この先の展開が期待されます。当日ご出席いただいた議員は次の方々です。(順不同・敬称略)



羽田 孜・木俣 佳丈・阿久津 幸・長浜 昭・大島 敦・伴野 豊・松本 剛明・樽床 伸二・上田 清司・北橋健治・松原 仁・山谷 えり・円より子・内藤 正光・羽田 雄一郎

次回例会は 政見発表大演説会？

第十九回の例会は、現未来部会担当で、十月二十一日、午後六時から九時まで、国際文化会館ホールで開催の予定です。当会は多士済々のサムライ揃いだけに、外部講師の話を聞くのもよいが会員自身の声を発表する機会も造るべきだ、そしてそれを基に大いに議論をしようじゃないかということになりました。そして、その魁として現未来部会のメンバー有志が弁士の日本をどうするか「これからの日本をどうするか」の模擬政見発表会をやるうということでありませう。ヤジはむろん、異論、反論、オブジェクション、何でも大歓迎です。

詳細はまた後日ご案内します。が、さて、秋の一夜どんなことになりませうか、どうぞご期待下さい。

現未来部会の現況
 連絡 塚本 弘
 Tel:03-3211-2765
 Fax:03-3213-1371

はそれをまともに何らかの出版物にしよと考えています。内

岩倉使節団の志で「日本の現在を捉え、未来を見ていこう」という考えでいろいろ議論してきました。政治、経済、安全保障、そして二〇〇一年記念事業として今期の出版

容についてはまだカオスのような状況ですが、これまでの成果を基にさらに議論を深めていく方向で進んでいます。

次回、九月六日の部会では、経済：野口宣也、教育：脇山真木、社会：長縄源太郎、IT革命：柳沢賢一郎の分担で報告することになっていきます。ご期待ください。

歴史部会の現況
 連絡 半沢健市
 Tel/Fax:03-3717-5576
 kenhanza@ba2.so-net.ne.jp

七月二十九日の例会の寺島講演は当部会の担当でしたが、好評でホッとします。講師を紹介いただいた藤原宣夫氏にあらためて謝意を表します。

部会は福沢諭吉を三回連続でとりあげました。が、福澤最終回の九月二十日は西部邁氏を講師に迎え、氏の近著「福沢諭吉」を論じます。歴史部会は、過去十四回にわたり日本近代史の群像と思想を検証してきました。が、二〇〇一年プロジェクトに向けては人物論中心で続けたと思っています。最近では平均二十五名前後の出席で二月から三ヶ月間一度のペースで開催しています。(半沢記)

西部邁氏を招いて
「福沢諭吉論」

映像部会の現況



連絡 岩崎洋三

TEL/FAX:03-3488-0532

八月二十九日に「ドイツにおける日本年」の企画の一つとして、ベルリンで英文版の映像会を行います。(一面参照) そのために若干再編集を行い、映像の担当として幹事の岩崎洋三氏がベルリンに行くことになって

全十巻「マラソン上映会」 十二月十六日(土)開催に決定!

恒例になった年一回の全十巻のマラソン上映会は、今年も十二月十六日に、日本プレスセンターホールで行うことに決定しました。まだ見えていない会員はあらかじめスケジュールに書き込んでおいて下さい。会場の広さからして百五十人を目安にしていますので、会員有志が知人友人を一人か二人勧誘してくればたちまち満杯になる勘定です。政治家マスメディアの要路の人にみてもらったり、新会員に勧誘したい人にもみてもらうのに絶好の機会ですので、いまからよろしくご勧誘のほどお願いします。

洞察力と脳力

一 的実ニ深察スベシ

泉 三郎

「米欧回覧実記」の例言にこうあります。「珍異目二充ち、奇聞耳二満ち、盛饗口二厭厭スルモ、神倦ミ筋疲ルルニ至リテハ・・・」、毎日毎晩、視察に奔走し、情報が豪雨のように降りしきる旅をしながら、久米邦武はその表層や断片の情報・知識に流されることなく、その背後にある西洋文明の原理原則をしっかりと洞察しました。おそらく久米は帰国後も様々な情報を集め、それを咀嚼し考え抜いたに違いありません。その類稀なる粘り強い知的営為が大著「米欧回覧実記」全五巻を生んだものと思われまふ。それを支えたものは何か、強烈な使命感であり、深い教養であり、明敏な洞察力であったでありましよう。その真摯な態度、妥協をゆるさぬ厳しさ、たゆまぬ努力には心底頭が下がる思いです。

は、同時に「二〇〇〇年の米欧回覧の旅」でありました。そこには現代の世界の中の日本を見抜く平成のサムライの真摯な姿がありました。その背景には、岩倉使節団に比すべき高い志、使命感、深い教養、そして本気で考え抜く力があつたに違いありません。いまや洪水のごとく押し寄せてくる情報にどう対処していくか、その玉石混淆の中からいかに玉を拾いその本質を見抜くか、寺島氏はその鍵を、静かに考え、粘り強く考える、脳力だと表現しました。現実を見る、情報を集める、考え抜く、この三者が揃ってこそ、世界の今の日本の現在位置が的確に把握できるのだと思います。久米は「世界ノ真形ヲ瞭知シ、的実ニ深察スベシ」と書きました。この言葉のもつ重要性を改めて認識し、それに果敢に挑戦していくことが、今、日本の指導的立場にある人にとって最も求められていることだと思います。

十八回例会での寺島実郎氏の講演「一九〇〇年への旅」

「インターネットサロン」を開設しました

URLは <http://iwakura-mission.gr.jp/> です

若い世代のデジタル族と熟年アナログ世代の豊富な実務経験を結びつけば何か面白いことができそうな時代の流れです。将来の可能性を夢見ながら、現実には、少数のワーキンググループがホームページのメンテナンスに忙殺されているインターネット部会です。

インターネット部会
 Tel:043-277-2009
 Fax:043-277-2037
 連絡 楠木孝雄
 ksnoki@msn.com



そんな中で、七月からホームページに新しく「インターネットサロン」が登場しました。誰もが気軽に発言できる談話室。特定のテーマについて、心おきなく議論ができるバーチャル会議室でもあれば、日常的情報交換に役立つ掲示板もあります。各人の原稿がストレー

トに掲載されて、何人の人がその記事を読んだか表示される楽しい仕組みです。まだ発言者が限られていますが、いかにも「米欧回覧の会」といった格調の高い議論が見受けられます。若い人たちの今

風の発言、うまい店の紹介、海外でのとっておきの話など、楽しい投稿をお待ちしています。「米欧回覧の会」のホームページを開いて、メニュー最下欄の「インターネットサロン」をクリックすれば、誰でもアクセスできます。利用方法などで疑問の点は、インターネット部会にご相談下さい。会員以外の投稿も自由です。ご家族、ご友人にもご紹介下さい。(楠木記)



関西支部
連絡 山崎岳麿
TEL/FAX 06-6853-3137

八月二十二日(火)午後一時から五時まで、大阪大学工業会会議室で会合しました。西川先生にもご出席いただき総勢十一名。ワイワイと色んな話をして、いつの間にか五時になつてしまいました。次回は、西川先生のご都合もお聞きして十一月九日(木)に決定致しました。

「岩倉具視展」国際社会への岩倉使節団が京都の霊山歴史館で開催されます。期間は十月二十六日から十一月二十六日まで。岩倉具視資料重文指定を記念したもので、十一月十五日には記念講演会も開催されます。東京の会員に来て貰い、関西支部のみなさんと交流するよい機会だと思います。ぜひご検討下さい。(山崎記)

国際交流部会の現況



連絡 浅沼晴男
Tel:090-8596-1589
Fax:042-745-1394

「ドイツ日本年記念行事」に参加するツアーの企画・実行に全力で取り組みました。(一面参照)
ドイツ駐在経験のある山田哲司当部会幹事がツアーリーダーになつて、八月二十七日に成田を出発し、ベルリン、ボン、フランクフルトを回る五泊七日の旅。「米欧回覧の会」として初の海外イベント参加だけに土産話が楽しみです。



実記を読む会
Tel:03-5469-2090
Fax:03-5469-2093
クラウンインターチェンジ

今年度は四月からテーマ別に掘り下げて読んでいこうという事で、報告者を決め下表のような分担をやっています。(六、七面のレポート参照)
報告者には、事前

部分のリストを提出して貰っています。毎回二十名前後の方が参加しています。雰囲気は上の写真からご想像下さい。席には余裕が

21世紀日本への提言大募集!

- ◇ 1テーマ本文200字以内。一人で何テーマでも構いません。
- ◇ タイトル、キャッチコピーなども工夫して下さい。狂歌、川柳形式など短い言葉でのズバリ表現や、ウイット、ユーモアのあるもの大歓迎です。
- ◇ 大テーマは「世界の中の日本-21世紀の進路を探る」ですが、「首相に物申す」「こんな日本にしたい」「こんな日本人であってほしい」等々自由にテーマを設定して下さい。
- ◇ 米欧回覧ニュースに「200字提言」欄を設けて掲載します。ペンネームの使用可。
- ◇ 応募方法はファックス、郵便、e-mail等で、米欧回覧の会事務局(イズミ・オフィス)宛にお願いします。「200字提言原稿」と明記して下さい。
- ◇ 特に締切は設けず随時受け付けます。思いついた時に書き止めご投稿下さい。
- ◇ ホームページの「インターネットサロン」にも「200字提言」コーナーを設けて、相互乗り入れを企画します。
- ◇ 発表された他の人の意見にコメントする場合や、200字超の本格論文に発展する場合は、「インターネットサロン」のご利用をおすすめします。

- 6月:産業革命・長谷川公一
英 国・多田 幸子
- 7月:教育・小菅心子、片上学
- 9月:1870年代のアメリカ
・水沢 周
フィラデルフィア別働隊
・合田一夫
- 10月:パリ・阿部賢一、松井千恵
- 11月:ローマ・磯野成子
- 12月:音楽・岩崎洋三&忘年会

ありますから、希望の方はご参加下さい。連絡は上記のクラウンインターチェンジ宛お願いします。

寺島実郎氏講演

「一九〇〇年への旅」要旨

第18回例会
日本プレスセン
ター10階ホール

現代日本はどこに立っているか。

自分の位置測定を時間的、空間的に行う必要がある。いくつかの国際会議に参加しての私の感想は、日本が国際社会から置き去りにされていること、しかもそれを自覚していないことである。

世界経済は現在、日本を除く、全ての地域で史上空前の同時好況を謳歌している。地域別の差はあるが、平均すれば実質成長率は年四%の時代である。二〇世紀を通してあのアメリカ経済の成長率は二・一%だった。それと比較すれば、世界経済の抱える問題は、エネルギーや資源の制約によって

この急成長に耐えられず、小淵の娘の当選が話題になっている。クリントン米大統領は八年の任期中七人の日本首相に会った。これは九〇年代における日本政治の



日本の総選挙では、最大の論点たるべき「くにかたち」が争点にならず、小淵の娘の当選が話題になっている。クリントン米大統領は八年の任期中七人の日本首相に会った。これは九〇年代における日本政治の



年」のなかにある日本を、「アジアの中心」だと思っただけだ。中国はマカオを回復して西欧植民地を一掃した。台湾は本土からきた国民党支配を脱した。朝鮮半島ではアメリカが見えにくくなり、南北が「主體的に」自分の道を切り開こうとしている。

リーダースHIPの欠如を象徴している。
★日本全体がグローバルゼーション疲れを起こしている。
江藤淳は、日本の現状を「第二の敗戦」と呼び、エコノミストの吉川元忠は「マネー敗戦」と名付けた。日本の貿易収支の黒字が資本収支の赤字などで帳消しにされている。
アリアが稼いだカネがキリギリスに収奪されている、というのが吉川の分析である。
かつて「米に学ぶものは何もない」とい、稟議制度、年功序列、終身雇用、カンパ方式などを誇った日本の経営は音を立てて崩れている。そして世論は、安手のナシヨナリズムに回帰しようとしている。日本はこのようにペシミスティックな状況にある。

日本はなぜ取り残されたのか。

それは冷戦の終焉とバブルのピークが同時発生したからである。欧州は冷戦後の世界にどう対処するか、アメリカの価値観からどう脱却するか、を真剣に考えた。その結論が、市場原理

万能の資本主義からの脱皮、ユーロ社会主義への転換、である。EU加盟十五ヶ国のうち十ヶ国は社会民主主義を選んでいる。たとえ、たしかにサッチャー革命は成功したが英国民は最後にノーといつて、トニー・ブレアの第三の道を選んだのである。競争主義、市場主義だけではダメだというのが欧州人の二〇世紀総括である。

★アメリカ経済の再生はIT(情報技術)革命と湾岸戦争の勝利によるものである。
冷戦終結時に、日本はバブルのピークだったから「カネさえあればシノげる」とタカをくくった。「踊るポンポコリン」などと歌って、日本金融の封じ込めを狙ったBIS規制や、WTO問題などを真剣に考えなかつた。政治は「五年体制」の流動化から究極の混乱に入った。

日経新聞の「新資本主義が来た」などを讀むとよくわかるが、アメリカ資本主義の本質は「IT革命とグローバルな市場化」の結合である。IT革命は軍事技術の民間への応用である。アメリカの財政改善に軍事予算の三分の一カットが寄与したことはあまり知られていない。米国の理工系学生が軍事産業から金融業へ



来日時に、中国の江沢民国家主席は仙台にある魯迅の碑を訪ね

ひとは歴史認識によって謙虚になる。宮城大学、早大大学院などで教えながら学生に「尊敬する人」のアンケートをとっているが歴史を知るにつれて様変わりする。
九八年秋の

「一九〇〇年への旅」を書いて感じたこと

ひとは歴史認識がなければ発言ができない。歴史を何となく知っている、のではダメだと思っ著誌「Forest」の連載で、一九〇〇年まで立ち戻ってみた。

た。魯迅は日露戦争のころ仙台
 医科専門学校に留学していた。
 戦勝気分がなかに日本人のアジ
 人侮蔑感が強まっていたが、教
 師藤野厳九郎は魯迅に人間的に
 接した。小説「藤野先生」はそ
 のことを回想した作品である。
 江沢民のメッセージは草の根の
 結びつきの重要性を訴えるもの
 である。

「中国残留日本人孤児」の扱
 いをみても中国人の「民力」の
 強さを感じる。日中両国の人口
 趨勢予測からみても中国の重要
 性は高まるばかりである。アメ
 リカのアジア政策も
 日米から中米、日米
 へとシフトするであ
 る。

★日本の二〇世紀モ
 デルは二つの特色を
 もった。

一つは、日本の「ア
 ングロサクソン同
 盟」である。ドイツ
 モデルでスタートし
 た日本は、一九〇二
 年から一九二一年ま
 では日英同盟、一九
 四五年から二〇〇〇
 年までは日米同盟を
 選択した。世紀の四
 分の三をアングロサ
 クソン同盟で過ごし
 たのである。二国間
 同盟の間は成功し離脱した多国
 間ゲームの時代に失敗した。ア
 ングロサクソン同盟堅持論者は
 いまも多いが、次の世紀には中
 国の台頭により状況が変わるだ



ろう。
 第二は、通商国家モデルであ
 る。アジアの優等生の論理は詰
 まるところ他人のフトコロを当
 てにして自分のフトコロを豊に
 するものだった。国際化とはつ
 ねに外へ押し出していくもの
 だった。今でもヒトもカネも外
 へ出ていっている。

★最近、一緒に講演した作家五
 木寛之は「明治の先覚者は近代
 化に和魂洋才で立ち向かった」
 といっていた。そして「マッ
 カーサーによって無魂洋才」と
 なり現在は「洋魂洋才」の時
 代になった、ともい
 った。

たしかに、新渡戸
 稲造、岡倉天心、鈴
 木大拙、内村鑑三な
 どの英文著作を読む
 と、日本近代一〇〇
 年でこれを越える自
 己主張はないと思
 う。日本人のもって
 いる多様性と許容力
 がおとろえてい
 る。もつと日本にア
 クティブネス(惹き
 つける力)をもたせ
 なければならぬ。外
 国人労働者の受け
 入れが必要だとい
 う時代に、内向性で閉
 鎖的になっている。

「一九〇〇年への旅」の総括
 としては、歴史には意味づけが
 あり二〇世紀の芽は一九世紀に
 市民革命、産業革命として現れ
 ており、二一世紀への芽は二〇

寺島実郎氏講演
 「一九〇〇年への旅」
 への質疑応答

世紀に国民国家、社会主義とし
 て現れているということだ。
 国民国家は欧州統合の実験に
 よって、社会主義はユーロ社会
 主義の実験によって止揚される
 のかも知れない。アメリカから
 は、IT革命という多国間のゲー
 ムの論理が提示されているとい
 える。

約一時間半
 にわたる講演
 後、九つの
 テーブルに別
 れた「米欧回
 覧の会」会員
 が討議を行っ
 たのち、テー
 ブル代表が寺
 島講師に講演
 への感想と質
 問を発表した。

主な質問

- ☆日本の何を魅力とすれば
よいか。
- ☆国家プロジェクトは何が
よいか。
- ☆日本の欠点を指摘しすぎ
ている。プラス面はない
のか。
- ☆対東北アジアへの戦略は
何か。
- ☆戦略論としてもうすこし
具体的なものが欲しい。
- ☆日本にリーダーを生み出
す方法は。
- ☆マスメディアをどう見る
か。
- ☆ユダヤ人の存在と戦略を
どう見るか。

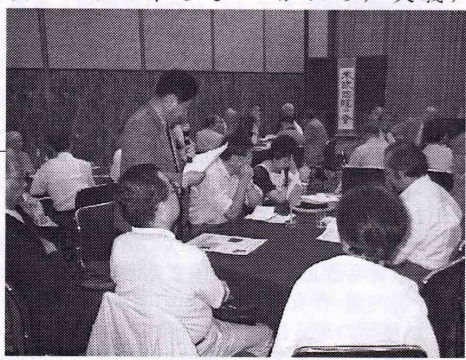
これに対して寺島講師から、国
 家戦略については著書「国家の
 論理と企業論」(中公新
 書・一九九九/
 九)、論文「正義
 の経済学」(中央
 公論・二〇〇〇/
 三、近く日経から
 単行本化予定)に
 譲るむねの発言が
 あった。

質問に共通するも
 のへの回答とし
 て、講師は「対米
 関係の再設定」の
 重要性を指摘し
 た。

★私の意見は反
 米、嫌米だと思っ
 ていない。親米派としても対米
 関係の再設計が必要で、具体的
 な議論が必要である。

極東に展開する十万人の米兵
 力のうち四万七千人が沖縄に駐
 留する必要性について突っ込ん
 だ議論をすべきである。昨年、
 ガイドライン法が変わった。プ
 レジンスキーは日本はアメリカ
 の Protectorate (保護領) だと
 いうている。

安保の評価についても、五〇
 年間も同じで良いというのは子
 供の議論だ。
 ①米国は、自国の利害と戦略の
 範囲でしか、日本を守らない。
 尖閣列島のケースをみても日中
 間抗争に介入したくないのは明
 白だ。
 ②米軍の長期駐留は異常でよく



ない。これはグローバルな常識
 だ。というのが安保論議の前提でな
 ければなら
 ない。
 日本が国
 連常任理事
 国へ立候補
 する話があ
 る。しかし
 日本はイン
 ドに負ける
 だろう。
 チャンド
 ラ・ボース
 を今も高く
 評価し、サ
 スコ講和条

約に調印せず単独で対日平和条
 約を結んだインド外交は、日本
 より大人だ。

★情報革命についていうと、サ
 ロン式の情報収集は無意味であ
 る。常に「問題解決型」でなけ
 ればならない。イスラエルのア
 ラブ情報収集の方法をみてい
 そう思った。
 ユダヤ人の高付加価値主義的な
 生き方も評価に値する。

★部品が良いが総合設計力に欠
 けるのが日本である。
 しかしプロジェクト・エンジ
 リアニング、NPOの活用、社
 会人の教壇へのリクルートなど
 まだ将来、発展の余地はある。
 (文責・歴史部会 半澤健市)

「実記を読む会」のレポート② 私は「米欧回覧実記」をこう読んだ

一、使節団の教育施設の見学について

- ①訪問校はアメリカが最も多い(十五校)
- ②障害児学校への関心も強い
- ③女子教育にも強い関心をもつ
- ④各国の学校の数、就学児童数、学費、規模、経営の方法等について数字が細かく記載されている
- ⑤職業訓練校の見学記も詳しい
- ⑥カリキュラム、教科(八教科) 音楽科の効用
- ⑦明治五年の学制はフランスの制度を取り入れたといわれているが、フランスでの見学校は少ない

二、「実記」にみる教育論

- ①アメリカの教育権の地方分権化(地方自治権が強いこと)
- ②東洋の教育が修身を重んじるのに対して西洋では「有形の理学を務め、養生計理の实事を講ず」

「米欧回覧実記」と教育

使節団の米欧見聞と維新政府による教育制度との関係

小菅 心子

三、維新政府による教育制度の整備と「実記」

使節団に随行して米欧の教育制度を研究した田中不二麿とダビッド・モルレーによるいわゆる「自由教育令」の中にアメリカの地方自治的にして自由放任的な要素が多分に盛り込まれているが、これに対して即、元田永孚は「洋風是競うに於いては将来の恐るるところ終に君臣父子の大義をしらざるに至らんも：」(教学聖旨)と宮内庁よりブレーキをかける。そして田中は司法郷に転出させられ、中央集権化による官僚支配が確立していく。元田に対しては伊藤博文も反論するが(教育議)一(教学論争)、やがて政権を握り細閣を前にする(明治十六年 文部大臣候補の森有礼に伊藤は「教育は：必ずや幼童を薫陶して人の人たる所以を知らしめ、一國の精神を興起せしむるを要とすべき：」と説き、森もそれをう

今回は、6月と7月の「実記」をお2人の報告者お2人のレポートです。編集部では皆様からの投稿をお待ちしています。投稿要領は3面を参照下さい。

けて(明治十八年)全国の知事、区長に「良き人物とは、善く国役を務め、また善く分に応じて働くことをいうなり：」と元田の考えを結果として全国的に広めていくこととなり、更にそれが教育勅語へと発展していくのである。

(下欄の年表「明治の教育制度史」参照)

四、結び

- ①明治の教育思想の制度化過程は、欧化派(開明派)によって遂行されたが、その過程において精神的な抑圧をうみだした。
 - ②国民の前に教育が現れるときは、いつも断片的な勅令や個別の制度としてであった。
 - ③吉田松陰に代表されるわが師、我が先輩をひきずっていた元勳グループの中には、真の教育家、教育思想家はいなかった。
 - ④開明派も儒家であったため、儒教によって西欧近代思想を抱き込もうという試みは不可能であった。(久米も含む) → 和魂洋才
- そしてこれが後の日本の教育の大きな課題となっていた。

明治の教育制度史(年表)

- 明治3年 - 「大教宣布の詔」神道の国教化、天皇の神格化
 - 木戸孝允「普通教育の振興を急務とする建白書案」 西欧文明の移入必要
 - 山田顕義「建白書」一般の基は国民一般の教育を高めることにある
- 明治4年 - 大学を廃し文部省を設置 文部大輔-江藤新平
- 明治5年 - 「学事奨励に関する被仰出書」政府が国民に示した教育宣言
 - *封建的、身分的教育の撤廃 *教育を人権実現の過程ととらえる観点はない
 - *国民の要求にそうというより、国家権力の強い要請によって強制的に作り出されたものである
- 明治12年 - 「教育令」(いわゆる自由教育令) 田中不二麿文部大輔 ダビッド・モルレー文部省最高顧問
 - *アメリカの教育行政組織に学ぶ。教育権限を地方に移譲する事を企図(自由放任的)
 - 「教学大旨」(教学聖旨) 元田 永孚 教育令にブレーキ
 - *天皇性教育の確立 *中央集権化による官僚支配確立 *田中 不二麿司法郷に転出させられる
 - 伊藤博文が「教学大旨」に反論→教学論争 *論争は元田の勝利→小学修身訓(教育勅語草案)
- 明治13年 - 「集会条例」教員、生徒の政治結社、集会参加禁止
 - 「教科書調査」文部省、府県に対し「国安を妨害し風俗を紊乱するがごとき事項を記載せる書籍」を教科書に採用しないように指示(171種中57種不採用)
 - 「教育令改正」教育の国家基準を明示 教育費の国庫補助廃止
- 明治18年 - 伊藤内閣 森有礼文部大臣の演説
 - *伊藤の考えは、政教一致の立場となり、元田の儒教教育と基本的に同じになってきている
 - *森は、結果として元田の考えを学校の教育課程を通じて全国に広めることになった
- 明治22年 - 大日本帝国憲法発布
- 明治23年 - 「教育に関する勅語」発布
- 明治25年 - 久米邦武「神道は祭天の古俗なり」の論文発表で帝国大学を追われる

産業革命の原点は、木炭から石炭コークスに燃料を切り替えた所から始まる。つまり本質的には動力革命なのである。木炭よりははるかに強力なエネルギー源である石炭が鉄鉄の製造に使用されなかったのは、石炭が硫黄を含んでいたからだ。硫黄分を含んだ鉄鉄はもろくて使い物にならない。

石炭を蒸し焼きすることによって硫黄分の大半を抜き取ったのがコークスであり、炭素の多い鉄鉄を溶融状態にもっていき、空気吹き込みによって炭素の酸化除去に成功、高品質の鉄鋼の大量生産を可能にしたのが、ベッセマー転炉だった。

更に天才ジェームス・ワットが前任者ニューコメンの蒸気機関の画期的な改良に成功した結果、この蒸気機関がまず紡績機、次いで機関車と蒸気船への動力として実用化されたのである。

大英帝国の実力

岩倉使節団の一行は、その国土面積が日本とほぼ同じくらいに欧州大陸の西端に位置する島国、英国が最高水準の工業力を背景に、軍艦、蒸気船、機関車、機械類を世界各国に輸出する大商業国であることを認識していた。

岩倉使節団の英国産業視察

一鉄ノ利タル真二無量ナルカナー

長谷川 公一

説(第二十一巻)の中で、英国は「汽器、汽船、鑛道ヲ發明シ、火熱ニヨリ、蒸氣ヲ驅リテ利権ヲ専有シテ、世界ニ雄視横行スル国トハナリタリ」と超大国、英国を批判しつつも、リパブル記の末尾で「鉄ノ利タル真二無量ナルカナ」と述べ、鉄に最大の関心を寄せ、次に石炭に着目、工業化学製品としては「第一に硫酸、

キャットスル、シエフィールド、バリーニング、クルーなど及びスコットランドの中心地グラスゴウの炭鉱、造船所、機関車工場など工業施設見学の記録である。とりわけ、第三十六巻のシエフィールド記では、久米の鉄鋼に対する関心の強さが伺えて興味深い。

カメロ製鉄工場

明治五年(一八七二年)十月二

十九日(旧曆九月二十七日)、當時としては、まさに画期的な最新溶鉱炉であるベッセマー転炉のあるカメロ製鉄工場(チャールス・キャンメル社長を訪問した叙述(実記第二編三〇頁一三〇頁)は、筆者久米の緊張感、じかに伝わってくるほど迫力があり、製鋼法について細かく記述している。

朝九時ヨリ車ニ駕シ、「カメロ」氏会社ノ鋼鉄製造場ニ至ル。此場ノ盛大ナルコト、一区ノ広域中ニ、大小ノ煙突參差トシテ天ニ朝シ、石炭ノ煙ハ、墨ヲ撥タカ如クニ、大空ヲ滾シテ轟起スルハ、暴風大雨ノ至ラントスル気色ヲナス、外ヨリ望ミテモ、己二人ノ心胆ヲ驚カス、前後ノ製造場ニ、如此キ壯大ナル場ヲ見ス(而来日耳曼「クロップ」ノ場ヲ除ク外ハ其比ヲミス)。

一行はベッセマー転炉が転倒と回転を繰り返しながら鋼材を大量生産する工場、ついで砲身、蒸気の輪軸、鉄道レール、電線、鋼鉄製の装甲板など見学していくが、一番の壮観は鋼板圧延工場だった。

く中で、へ生鉄(鉄千分に化合の炭素二十分から五十分を含む)、熟鉄(鉄千分に炭素二分から五分)、純鉄(純鉄千分に炭素十五分を含めたもの)の三種の鉄鋼の化学的相違を説明した後「このように鉄の性質は含有炭素の加減と酸化によって異なるが、この鉄質をしつかりと理解していなければ、鉄鋼を製造し活用することは出来ない。東洋(の国)は、この鉄質化合の理を知らず、ただ天を仰いでその用を足すだけだ」と嘆いている。

サムライの心意気

米欧回覧実記は、全編を通して、久米は第二編について「此編ノ主トスル所ハ、其回覧ニ就キ、英国ノ富強致スニ於イテ、四民生理ノ景況ヲ実歴シ、我日本人ニ感觸ヲ与フルニアリ」と言い切り、世界の最先進国であった大英帝国へキャッチアップしようとする真剣に考えていた武士の心意気をのぞかせている。

三重県で会誌「米欧回覧」創刊

三重県四日市市の「米欧回覧実記の会」(代表 林潤一氏)が会誌「米欧回覧」を刊行。その創刊号(全64頁)を、当会泉三郎代表宛に恵送いただきました。

同会は会員20名で、平成10年4月発足以来「米欧回覧実記」の読書会を続けてきました。12回目を迎え、第一編「アメリカ編」を読み終えた本年3月に、会員の寄稿、作成資料をもとに会誌を発行することを決め、7月に無事創刊の運びとなりました。

同会は、93~95年に実施された「岩倉使節の足跡を訪ねる旅」に参加して、コーディネーター役の泉代表とその著書に感銘を受けた、山内道夫氏、森良平氏が発起人になって設立されました。

志を同じくする仲間として、同会の堅実な歩みに拍手を送ると共に、今後お互いの会の発展のため手を携えて進みたいと思います。

創刊号ご希望の方は、実費千円(送料共)を添えて、下記にお申込下さい。

510-0087四日市市西新地15-1 山内道夫様
米欧回覧実記の会事務局 Tel:0593-52-5647 Fax:0593-52-8249

「米欧回覧の会」ご案内

趣 旨 この会は「岩倉使節団」に興味をもち、その記録である「米欧回覧実記」に関心を抱く人々の集まりです。この大いなる旅と「実記」はまさに「温故知新」の宝庫と言えましょう。この素材を媒体にして歴史をふりかえり現代の直面する諸問題についても自由に語りあおうという会です。

会 員 上の趣旨に賛同する人なら誰でも入会できます。

例 会 年に4回くらい全体例会をもちます。

分科会 テーマ別にグループ活動をします。映像サロン・勉強会・旅行会・研究会・シンポジウムなど。

機関紙 年に4回程度機関紙を発行し活動報告や会員の意見発表、情報交換の媒体とします。

幹 事 会員の中から、代表1名、幹事十数名を選び、運営を担当します。

会 費 年会費5,000円とし、主として通信費及び機関紙代に充当します。例会・分科会・講演会などについては、その都度の会費とします。

事務局 当面「イズミ・オフィス」に置きます。

〒192-0063 八王子市元横山町1-14-16
E-mail:Info@iwakura-mission.gr.jp
URL:http://www.iwakura-mission.gr.jp/
TEL:0426-46-3310
FAX:0426-45-8700

入会申込

氏名・連絡先(自宅或いは勤務先の住所・TEL・FAX)現職&キャリアを事務局までFAXまたは郵便でお送りください。なお年会費は郵便振込が便利です。

00180-2-580729 米欧回覧の会

<催し案内>

2000年9月～12月の予定です。

☆第19回例会

日 時：10月21日(土) 18:00～21:00

場 所：国際文化会館ホール

テーマ：「これからの日本をどうするか」

現未来部会有志による模擬政見発表会を予定

詳細は追ってご案内します。

☆実記を読む会

9月7日(木) 18:30～ テーマ 「米国」

10月5日(木) 18:30～ テーマ 「パリ」

11月9日(木) 18:30～ テーマ 「ローマ」

12月7日(木) 18:30～ テーマ 「音楽」忘年会

会場はクラウンインターチェンジプログラムです。

*11月及び来年度の発表希望者申込受付中

☆歴史部会

日 時：9月20日(水) 18:00～21:00

場 所：国際文化会館Dルーム

テーマ：「西部邁の福沢論吉論」

講 師：西部邁氏

☆現未来部会

日 時：9月6日(水) 18:00～21:00

場 所：国際文化会館セミナールーム

「経済」「教育」「社会」「IT革命」の各テーマについてそれぞれの担当者が発表する。

☆マラソン上映会

日 時：12月16日(土) 10:00～17:00

場 所：日本プレスセンターホール

☆関西支部

日 時：11月9日(木) 13:00～17:00

場 所：大阪大学工業会会議室

会 費：2000円

ご照会は山崎まで (Tel・Fax:06-6853-3137)

編集後記

◇南北朝鮮の首脳会談や、東和平のトップ交渉には、「サミット」という表現を用いる外電ですが、沖繩の首脳会議については、あまり「サミット」という呼び方はせず、G8の略称で軽く済ませていたような気がします。これが、国際ジャーナリズムの見識なのかもしれません。

◇創刊以来の本紙の顔ともいうべき「泉三郎コラム」を、思い切って一面から二面に移して見ました。紙面構成に変化をもたせようという試みの一つです。皆様の評価はいかがでしょうか。

◇「会員ひとりひとりの発言の場をどうやって確保するか」という難題に、本号では、二つの解決策を示しています。一つは「二百字提言」への応募。もう一つはホームページ上の「インターネットサロン」への投稿。どちらの方法でも編集部をてんでこ舞いさせるような反響を期待しています。とにかく一度トライしてみてください。

◇寺島講演と「読む会」お二人のレポート。重量感のある原稿を全文お伝えするため、活字のサイズを少し小さくしました。ご感想は？

◇残暑が続きます。くれぐれもご自愛のほど。(K)